在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2018/06 後期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆特集　模擬試験を徹底的に活用する

今回は、模擬試験についての確認です。最高学年へと進んだ３年生は、これからさまざまな模擬試験を受けることになります。マーク模試、記述模試、個別大学模試といった具合です。２年生は、年４回の模擬試験に加えて、他社の模擬試験を受験する機会が少しずつ増えてきます。１年生は、基本的に３回の模擬試験を受験することになります。模試は全国での自分の位置を知る以外にも多くの役割があります。模試に向かうにあたっての注意点と模試の活用方法を今回は考えてみましょう。

まずは過去の「進路のしおり」の合格体験記の中から、模試に関する記述をひろってみましたので確認してください。

■先輩Ａ

私は、学校で行われている夏期講習に１日も休むことなく通い続けました。しかし家に帰ってからは、机に向かっても何をしていいのか分からず、講習の予習で終わってしまう毎日でした。そして夏休みの最後に行われた模擬試験で初めて自分の実力を知り、自分の目指す大学にはほど遠い成績だということがわかりました。

■先輩Ｂ

模試は、受けたほうがいいです。自分の学力を知ることができます。また、模試を中心に受験勉強を進めることもできます。それだけでなく、模試のおかげで、かなりの体力がつきます。本番のセンター試験は、２日間の日程なので体力的には余裕ができます。模試は、メリットが多くありますので、だいぶお金はかかってしまうのですが、受けることをお勧めします。また、模試は解き直しが一番大事だと言われます。私は、本来ならば３回解き直さなければならないものを、２回しか解き直せていませんでした。３回解き直せば確実にもっと点数が伸びたと思います。模試を受けたなら、解き直しは必ずしてほしいです。

■先輩Ｃ

「模試ノート」湖陵生ならきっと１度は先生方から聞いたことがあると思います。効果絶大です。センター試験の前日に、今まで作った模試ノートを見直したのですが、似たような問題がかなりたくさんでました。私は模試ノートをちゃんと作ったのは３年生になってからです。１・２年生の時も作ることは試みてはいたのですが、・・。間違った問題文、正しい解答・解説をノートに書くことはかなり面倒でした。結局中途半端にやめることが多かったです。３年生になってからはその反省を活かして、問題用紙をコピーしてノートに貼って、解答・解説をその隣に書くという形式に変えました。その形式だとかなり楽ですし、点数が上がると模試ノートの分量を減らすことができました。「何から勉強していいかわからない」という人は是非「模試ノート」を作ってみてください。

■先輩Ｄ

模試は個別大学模試以外はすべて受けました。（３年生の模試）お金はかかるし、３年生の秋になると、毎週模試があってキツかったです。模試を受けた後は必ず間違えた問題を復習しました。（たくさん模試をうけていたので、ためていましたが・・・）模試は、受けっぱなしではもったいないです。私の場合、別の紙に書き出す方法だと、全然進まず、途中でやめてしまうことが多かったので、数学以外は問題用紙に直接解答や解説を書き込む形で復習していました。（これだと同じ問題を解き直すことができないのがデメリットです）

■先輩Ｅ

３年生になると模試などがたくさん受けられるようになります。私は可能な限り受けていました。模試の復習は暗記系の科目は自分が十分理解していなかった問題の解説の所をマークしたり自分でメモを加えたりゴロを考えたのを書きこんだりしていました。そうすると自分のわからなかったポイントがすぐわかる参考書のようになるし、もともと解説は詳しく書かれているのでとてもわかりやすいです。必要な教科の問題冊子と解説部分をきれいに破ってあとの部分は捨ててしまい、それぞれホッチキスでとめ、次の模試もその次の模試も同じように重ねていました。そうするとすっきりして復習もしやすかったです。曖昧な問題にはしるしを付けておき、何回もその問題に取り組めばいやでも覚えることが出来ました。私はそのようにして復習をしていました。他にも間違えた問題の解説を切り取り、ノートに張り付けたり、ポイントをノートに書き込んだり或いは眺めるだけで復習になる人もいるかもしれませんが、自分に合う方法であればなんでもいいと思います。

１．模試で知る志望校と自分との距離

先輩 A はたいへん正直に模試を受けて知ったことを書いてくれています。３年生の夏休みからの学習では間に合わないことはいうまでもありません。「やればできる」という幻想を捨て、毎日少しずつでも学習する習慣をつけねばなりません。

２．模擬試験は本番のように、本番は模擬試験のように

模擬試験は本番を想定して受けることが大切です。どこまで本番をイメージできるかが合否にかかわります。例えば、開始時間１分前に滑り込みで試験会場である教室に入ってくる生徒が時々見受けられます。本番でそんなことをするのでしょうか。マーク式模試は「鉛筆でマークする」が鉄則です。大学入試センター試験の要項にもそのことが明記されています。しかし、模試ではいいやと、シャーペンでマークする人がいます。生徒は、「本番は鉛筆でマークするので大丈夫です」という顔をしています。残念な結果を「自分で導いている」行動としか思えません。ちなみに１・２年生の１回目の模試は記述式ですから、シャーペンでもよいですが、マーク模試では避けねばなりません。

つまり、せっかくお金をだして受ける模試です。「受ける姿勢」も本番のような緊張感をもってほしいです。日頃の練習時、緊張すべきときにしっかり緊張しないので、「本番で緊張したから力を出し切れなかった」という結果にもなるのです。

３．受験も体力勝負です

先輩 B は、受験が体力勝負であることをはっきり述べてくれています。東京工業大学（超難関大学です）の数学の試験だけでも３時間です。数学だけで３時間（9:30 ～ 12:30）もあるのですよ。

大学入試センター試験も英語や国語の試験時間は 80 分間です。模擬試験の試験監督をしていて感じるのですが、以前よりも試験時間の最後まで集中力がもたない生徒が増えてきた気がします。ゆえにしっかり模擬試験を受けていくことが、本番の試験に対応できる「体づくり」には欠かせません。さらに特に 3 年生は、模試の時だけでなく、最低８０分間全力で頭を使い、問題に取り組むという経験を日頃からしなければなりません。部活動等で忙しい人も、休日ぐらいは、30 分の勉強を３セットして 90 分という感じではなく、同じ 90 分間なら、90 分間連続で、頭を使うという経験も積みましょう。

４．模試の復習は「試行錯誤」した人の勝ち

模試の復習の仕方は「試行錯誤」してなんぼです。ここまでの話を 3 年生にのみ関わる話と考えて

いたら大間違いです。先輩 C の内容を確認してください。3 年生になって自分なりの方法で模試の復習ができたようですが、１・２年生の間、なにもしていなかったわけではありません。とにかく復習しなければと、試行錯誤を繰り返したようです。この試行錯誤が人間を大きく、強くしてくれると思うのですがいかがでしょうか。試行錯誤もなく、ある日突然、ベストな方法を悟るなどということはおそらくないでしょう。

「どう復習したらいいですか」教科担当の教員にアドバイスを求めるのは悪いことではないが、何かすばらしい唯一の方法があると思っているのなら、それは間違いです。近道や労力が少なくて済む方法があると思ったら、これまた大間違いです。同じ教科担当の教員を頼るなら、自分で考えた方法や、実際にやってみた方法をぶつけてみてはどうでしょうか。そうは言いつつも、模試の復習について試行錯誤などを積んでこなかった人もいるでしょうから、臨機応変に対応し、まずは復習の一歩を踏み出すことです。

５．模試の受けっぱなしは、もったいない

模擬試験を単なる「腕試し」的に受験している受験生は、時間とお金を浪費しているに過ぎません。

模擬試験の本当の活用法は、試験終了後に配られる解説の徹底理解にあります。模擬試験といっても試験会場はそれなりの緊張感があり、問題を解くにしても、自分の部屋で解いているときよりもずっと印象に残るはずです。

模擬試験の緊張がさめないうちに自宅に直行して、徹底的に復習することによって、模擬試験は生きてきます。しかも、模擬試験の問題は、実際の入試の傾向をとらえるべく予備校や出版社が総力を挙げて作った問題であり、解説も参考書よりも詳しくかつポイントを押さえているのが普通です。問題が強く印象に残っていると言う普段とは違った状態で、良問を最高の解説を使って復習出来ると言うのですから、こんなに恵まれた環境はないと思います。こんな状況を作り出してくれることを考えると、模擬試験の受験料なんて安いものです。

６．解答・解説は徹底的に活用する～復習と模試ノートの作成

先輩 A ～ E が共通して言っているのも、「復習」の必要性です。特に先輩 B は 2 回も解き直しをしたようです。口で言うのは簡単ですがなかなかできることではありませんね。模試ノートをつくって、間違えた問題の解き直しや、ポイントの整理に利用しましょう。具体的な作り方は、先輩の意見も参考になるでしょう。先輩 E がいっているように、自分のやり方を探すことが肝要です。

試験当時の復習が効果的であることは前述しましたが､その日だけの復習で終わらせてしまうのは、なんとももったいない話です。

模擬試験の問題・解説は、いつでも使える状態にしておかなければなりません。100 円ショップで販売されている大きな封筒やファイルに、科目別、主催者別に入れておくと、すぐに取り出せて便利です。

現役生は、模擬試験を受けて、その日のうちに徹底的に復習したとしても、なかなか理解できないものです。まだ習っていない問題が出題されることもしばしばあるからです。特に、夏休み以前なら、一部の現役生を除いて、自信を持って理解した等とは言い切れないはずです。しかし、夏休みが終わった段階で以前受けた模試の復習をすれば、かなりの部分が理解できるようになるはずです。傾向と対策を念頭においた創作問題が、最高の解説で説明されているのですから、この復習は大きな力となるに違いありません。

更に復習内容の定着を図るために、解説の要点をノートや単語帳に書き出せば、自分だけの参考書（模試ノート）が出来上がります。これは無駄のない究極の参考書と言えます。

そこまで復習して、使い込んでこそ、模擬試験を受けたと言えるのではないでしょうか。

７．受けるべき模擬試験は全て受験する

１・２年生は全員で受験する模試がほとんどです。３年生での４月に実施されている総合学力記述模試（ベネッセ）が最後の全員模試です。それ以外のもの、１・２年のハイレベル模試（学研）や３年生の４月の模試を除いた全ての模擬試験は任意のものとなります。任意ですから、自分がお金を払い忘れたら当然受けることができません。難関大学を受験すると決めているのに、ハイレベル模試を「面倒くさいから」という理由で受験しないのでは困ります。

３年生は５月から夏休みまではマーク２回、記述２回、８月からは毎週のようにあります。○○は受けるけど、△△は受けない、と選り好んで受けようとしているあなた！過去に実際にあった例を紹介しましょう。土曜日、模試を受けに来た生徒が座席表を見ると自分の名前がない。（事前にクラス掲示された表を見てもいない）そこで進路室に来て「ないんですけど」と尋ねてくる。確認するとお金を払っていない。「払ってないから当然座席はないよ」生徒は首をかしげて「そうなんですか」と納得のいかない表情で帰路につく。これでは受験の神さまは微笑んでくれるわけがありません。

また、２次試験は小論文しかないので受けない、という子もだんだん増えてきます。確かに小論ならばいらないでしょう。しかし、その１校しか受験しないのでしょうか？センター試験の結果次第で志望校も変えざるを得ないはず。「実際の受験校」についてしっかりとイメージした上で臨んでください。

８．偏差値は大事なのか？　　私大の専願って！

１・２年生は偏差値が自分の実力を知る上で最も大切なバロメーターとなります。全国の高校のおよそ７５％が受験しているからです。平均点＝偏差値５０。湖陵生なんですから、５０は軽々と超えてほしいものです。

３年生はどうでしょうか。記述模試ではやはり大切でしょう。しかし、マーク模試では必ずしもそうとは言い切れません。センター試験は実際に何点取ったかが勝負です。平均点が高かろうと低かろうと何点取ったか、すなわち生点＝なまの点数が一番大切です。当然何を何点取るべきなのか、３年生はイメージしているはずです。その目標点をきっちりと取る努力を継続して下さい。

文型クラスを中心に、私大のみを受験しようとしてマーク模試では５教科７科目を受けていない生徒が既にいると耳にします。自分で私大専願を決めているならばそれでもかまいません。しかし、８月に国公立も視野に、には決してできない、その道を歩き通すしかない、ことをあらかじめ理解しておいて下さい。年度途中から科目を増やすことはかなり無理があります。過去の卒業生を例にとりましょう。私大の看護志望。第１希望は天使大。私大は全て不合格。高看は受けていない。合格したのは唯一、国公立の旭川医科大学。最後まで５教科７科目を受験し続けたからこその結果です。「志は高く、易きに流れない」。それでも科目を絞りたいならば、５教科７科目に費やすべき全エネルギーを絞った教科に注いで下さい。少ない科目数ならば、当然ハードルが高くなります。それを完璧に理解した上で日々の勉学に励むこと。

９．模試が楽しみになるよう工夫する→合格に近づく

最後に、合格した人の模試への姿勢で共通点は？と尋ねられたら、

①悪い成績でもへこたれない（自分と向き合おう）

②とにかく間違った問題を中心に徹底的な復習（勉強に近道・楽な道はない）

③模試を楽しみにしていた（模試ごとに完成分野があった。以下に詳述。）

以上 3 つのうち、１つ以上の要件を備えていたように思います。

受験勉強はとにかく、早い内に最後まで学習するのが大事です。たとえば、今数学で学習している分野だけでも、何度も解き、完成に近づけるのです。その分野の最後の問題までやりきるのです。完成に近づけたり、ある分野が終了していれば、「どれくらいできるだろう」と欲が出るのが一般的です。（勉強したからってすぐに成績が向上するわけではないのですが）その欲を持つことが大切です。英単語帳一冊でも真剣にやりきったら、「この単語力で、どのくらい模試の長文が読めるんだろう」と欲が出るはずです。教科の全分野を終わらせるのは難しいでしょうから、特定の分野だけでも最終問題（最後の内容）まで勉強することです。模試において欲がないのは、単に何もしていないということです。